

第3回 多治見市特別職報酬等審議会 議事録

日 時：平成26年9月22日（月）

15：00～16：20

場 所：多治見市役所5階第2会議室

出席委員： 坂崎金次委員、古橋 進委員、堀尾憲慈委員、水野友範委員、松田 純委員、
岡田つや子委員、木下貴子委員、若尾由美江委員
多治見市： 瀬瀬総務部長、木村議会事務局長、加藤直美総括主査、
（事務局） 青山崇企画部長、打田浩之企画部次長、鈴木良平人事課長、大竹康文総括主査、
島津和世主査

15：00 開会

青山部長	皆様こんにちは。本日はお忙しいところ第3回多治見市特別職報酬等審議会にお集まりいただきましてありがとうございます。 前回8月26日に開催した審議会では、4年前からの見直しを含めたご意見を委員の皆様からいただく中で、会長、副会長で案を示していただくことになりましたが、今回は審議会としての案を固めていただければと思います。 それでは会長、よろしくお願い致します。
議長	皆様、こんにちは。本日は第3回多治見市特別職報酬等審議会にご参集いただきましてありがとうございます。 ただいま青山部長からも話があったとおり、今回は、前回までの審議内容を基に、会長と会長の職務代理者で答申の素案を作成いたしましたので、これを基にご議論をいただきまして答申内容を決定したいと思いますのでよろしく願いいたします。 それではまず「秘密会について」を議題といたします。本審議会は秘密会とすることができませんが、本日はその必要もないと認められますので、秘密会としないことに決してよろしいでしょうか。
委員一同 議長	－異議なし－ ご異議ないようですので、そのように決しました。 次に議案第1号「議事録署名委員を定めるについて」を議題と致します。 本日の議事録署名委員を議長において2人を指名したいと思いますがご異議ございませんか。
委員一同 議長	－異議なし－ ご異議がありませんので、議長において水野友範委員、木下貴子委員の両委員を指名致します。よろしくお願い致します。 では、ここで前回の議事録について確認を致します。

鈴木課長

皆様には先に発言内容の確認を依頼しておりますので、概要について事務局より説明をお願いします。

議長

委員一同

議長

第2回審議会の議事録をまとめさせていただき、事前に委員の皆様へ送付し内容確認をしていただいております。委員の皆様からは特に変更等ございませんでしたが、事務局側の発言の中で若干表現を変えさせていただいたところがございますのでご確認いただければと思います。他にご意見等ないようでしたら、この内容でホームページに掲載させていただきたいと思います。

委員の皆様、議事録の内容について訂正等ございませんでしょうか。

ー訂正等なしー

訂正等ないようですので、発言委員の名前を伏せてこの内容でホームページ等により公開することと致します。

次に議案第2号「答申案について」を議題と致します。

今回の答申案ですが、冒頭にも触れさせていただきましたとおり、会長及び職務代理者において素案を作成しましたので、まず委員から内容につきまして説明をお願いいたします。

委員

まず委員の皆様、特に今回新しく参加された委員の方につきましては、慣れないことで大変だったかと思いますが、本当にご苦勞様でした。いよいよ今日で最終決定となりますが、前回までの審議会でご議論いただいた内容につきましては、別紙のとおり項目別で記載されております。

最終的には多くの方が「報酬については引き上げが妥当である」という結論に達しておりました。これを踏まえて事務局で数値を出したものを作っていただき事前に皆様へ送付しておりますが、議論は十分にされておりますので、素案を基に具体的な金額を個別に決定していきたいと思います。

ここで現在の状況などについて若干触れておきたいと思います。

アベノミクスによる経済効果といっても、あまり実感はなく、まだまだ中小企業までは効果が出てきていないと感じます。例えばトヨタ自動車などは、本社が高利益を上げている一方、中小の下請け会社の7割は横ばい、もしくは利益につながらない状況で賃金を上げることが難しいと聞きます。まして多治見は中小企業がほとんどですので、景気が良くなっている感じもありません。これらを踏まえると、やはり報酬額の引き上げは市民感覚からいっても小幅がベターだと感じましたので、参考として前々回下げた額の2分の1を基準に設定しています。これが妥当かどうかを皆様にご検討いただきたいと思いますのでお願いします。

議長

ありがとうございました。事務局から補足説明等ありましたら、お願いします。

鈴木課長

それでは、答申案をご覧くださいながら説明させていただきます。

1～3に具体的な額を記載しておりますので、まずは「5 審議経過」以降について、文章表現等の確認をお願いしたいと思います。では読み上げさ

させていただきます。（「5 審議経過」について（1）～（4）を読み上げ）
次に額についてですが、1 ページをご覧ください。

（「1 議員の報酬月額」～「3 市長・副市長の給料月額」を読み上げ）

引き上げ額の根拠についてですが、先に皆様にお送りしていますA4横の表をご覧ください。こちらは前々回の答申前の額と現在の額を示した上で、引き上げ額をどこまでにするのかを検討いただくための資料です。前回までの議論から引き上げ額をどこまでにするかということですが、おおむね今回のベースアップや定期昇給を含めた賃金改善が平均2～3%ですので、前回下げた額の半分を基本に考えたらどうかということで、市長がプラス2万5千円、この表の太枠内となり月額は100万5千円、引き上げ率は2.55%となります。副市長は4万円引き下げたものを半分戻して2万円を引き上げ、月額が84万円、引き上げ率は2.44%となります。議長、副議長は前回2万円引き下げましたので今回は1万円を引き上げ、議員は前回1万5千円引き下げましたので、単純には7,500円ですが、基本的にはこれまで5千円単位としていました。ただ5千円単位にしますと5千円か1万円かということになりますので、今回は7千円の引き上げ案としていますが、端数の500円を切り上げるのか切り捨てるのかという議論もあるかと思います。

これまでの議論の中では、議員を若干抑えたらどうかというご意見もありましたので、それも踏まえて切り捨てた7千円の案としています。

考え方は前回の引き下げ額の半分が基本となっておりますが、前回の引き下げ率が市長、副市長、議長以下で異なっておりました。それを同じく半分かずつ戻すと、今回は市長の引き上げ額（率）が大きく、議長以下が少なくなり、額について差をつけたらどうかというご意見もありましたので、今回は額というよりも率で、議長以下が抑えてあるという状況でございます。

事務局としては特に金額について皆様に決定をしていただきたいということと、文章表現や（4）の審議会の要望事項についてご議論いただきたいと思います。改定時期につきましては来年の4月1日となりますので、本日決定いただきますと、12月議会に提案し来年4月から引き上げるという流れでございます。説明は以上でございます。

議長

ただいま素案についての説明がありましたが、本日、金額を皆様に決めていただかなければなりません。まずは「5 審議経過（1）～（4）」の文章表現についてお諮りします。これまでの議論をまとめた内容になっていると思いますが、いかがでしょうか。

委員

このままで良いと思います。

委員

とてもよくまとまっていて良いと思います。

委員

これまで議論をしつくされた内容が見て取れますので、良いと思います。

委員

この内容で良いと思います。

委員

良いと思います。

委員	よくまとまっていて良いと思います。
議長	皆様、このままで良いということですので、(1)～(4)についてはこの内容で決定します。次に金額について、ご意見をお願いします。
委員	前回下げた時の感覚からすると、大幅に下げたという感じはなく、各務原市との横並びを考えてこの金額になったということがありました。 今回何%上げるかと考えたときに、前回下げた分をそのまま戻すのは、大幅アップとなり良くないと思っていますので、今の状況を考えても金額的にはこの案が理想的だと思います。
議長	前回の下げ率が約5%ということですが、一般的に考えてみると5%という下げ幅は大きいと思います。
委員	一般的な賃金改善が2～3%ですので、素案どおりであれば市長、副市長の改定率が範囲に含まれます。議長以下は2%を割っていますが、議員活動の「見える化」推進の要望事項にもつながっていくので良いと思います。
委員	委員の言われるとおり、市長、副市長は妥当だと思いますし、議員についても、しっかり「見える化」をやっていただきたいという意味も込めて原案の内容で良いと思います。
委員	原案どおりで良いと思います。
委員	正直迷っていましたが、皆さんの意見を聞いて理解ができました。原案が適しているとの判断ができました。
委員	経済状況を踏まえると今回の内容で良いと思いますが、前回の大幅な引き下げは、民間の景気悪化に連動して下げたということでしょうか。
委員	平成22年まで長期間開催していなかったことが大きいですが、景気が悪くなっていた中で市長、副市長等が暫定措置で額を下げていましたので、もらう金額は変わらないのであればということで、その金額まで下げたものです。また他市との関係も踏まえて検討したという部分もあります。
鈴木課長	平成22年まで10数年開催せずに金額も据え置きとなっていました、額の引き下げを考える時にその間の経済悪化分をそのままあてはめると、引き下げ額がかなり大きくなってしまいます。他市との関係も踏まえて議論した結果、市長は5万円の引き下げが妥当となったようです。
委員	長期間、審議されなかったことが大幅な減額につながったと思いますので、その時に2年に1回、定期的に開催するよう要望が出たのだと思います。
委員	市長の額をちょうど100万円とするのはどうでしょうか。そうすると市長が2万円増額なので副市長は1万円、議員は5千円の増額になると思います。ここ2年間の実績といってもあまり目立つものはなく、どちらかというと期待度を込めた金額となっていますので、小幅の増額が望ましいと思いますし、「元気な市」を目指しているということですので、半分より抑えた100万円で留めて、今後さらに頑張っていただきたいと思っていますところでは。
委員	ここ2年間の実績という部分では確かに見えてきませんが、先日、恵那市

委員	長と話をした際に、恵那市が大企業を誘致できたのは、たまたま土地があったからであり、先方は恵那市でなくてもよかったようだと話してみえました。 そういう意味では、実績を出す前の準備段階の時期もあると思います。 恵那市は線引きされている場所以外は、比較的どこでも誘致ができる状態ですが、多治見市は平成8年の線引き以後、工業用地、商業用地、住宅地等の制限があって難しいところがあります。
委員	この問題を解決するには、やはり「特区」しかないと思います。多治見市をどういうまちにするか、長期的なビジョンで考えていかなければなりません。特に中心市街地である駅周辺は高齢化や過疎化が進んでいますし、そこを再開発するのか区画整理をしていくのか、住民も意識を変えて、行政側もしっかりと取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。
委員	多治見は東濃地域のリーダー的存在になってきていますし、将来展望という点ではいいイメージもあります。
委員	多治見は「まち」とはいえ、まだまだ発展していませんし、多くの人は生活圏を名古屋に求めています。まずは人口流出を食い止めないといけませんので、もっと魅力があって、働く場があるまちにしていかなければなりません。 人口が増えれば税収も増え、教育や医療も充実したまちになっていくと思います。
青山企画部長	100万5千円を100万円ではという意見をいただきましたが、今後2年に1回開催するのであれば、5千円単位も状況に反映しやすいと思います。 多治見市の人口減少については、先日の議会でも質問をいただきましたが、若者の晩婚化も理由の一つにあるようです。昨今の地価公示の公表においては多治見市の上昇率が県下でも高かったことから、多治見に対する期待感も若干はあるのではないかと考えているところです。
委員	国民一人あたりの平均所得は東京で570万円、全国平均で410万円ですが、多治見でそこまでの所得は見込めません。定住化が人口増加につながっていくと思いますので、製造業に限らず、若者が結婚して子どもを育てながら生活していけるだけの収入が見込めるような企業を誘致すべきだと思います。
青山企画部長	アマゾンがパートでの雇用が多いのは確かです。今後を考えると、やはり設備投資が必要な製造業が良いのではないかと考えています。
議長	県内で多治見と同じ悩みを持っている自治体はないのでしょうか。
委員	地域の中に住んでいるとわからないかもしれませんが、中津川にリニアの駅ができることもあって、多治見は今後劇的に変わる要素を持っています。 先日、リニアの講演会で、江戸時代や明治時代には小さなまちであった浜松や静岡が新幹線の開通により大きく発展したという話がありました。 多治見は東濃地方の玄関口ですし、大都市である名古屋にもつながっており東京にも短い時間で行けるという点でも今後は発展していくと思います。 ただ企業誘致については、現在市有地には難しい状況ですので、しばらく

青山企画部長
委員

は民間でやっていかざるを得ないと思います。

地震の関係もあって企業が移転したいということもあるのでしょうか。

東日本大震災以後、どこの企業でもBCP（災害時における事業継続計画）が高まっています。どんな災害に見舞われたとしても大手企業には供給責任がありますので、なるべく災害を受けない土地に移転したいという考えも出てきています。

議長

多治見から土岐、瑞浪あたりは地盤が固いと言われているので、各企業も注目しているのではないかと思います。

額を中心に議論いただいているところですが、「この案でよい」という意見が多いように感じます。たとえ1,000円でも「上がった」ということは士気にも影響しますし、やりがいにもつながってくると思います。

委員

2年に1回審議会を開催するのであれば、小幅の変化も「あり」だと思います。私自身も先日初めて懇談会で市長と話す機会がありましたが、各学校のPTA会長の質問等にも一つ一つ丁寧に対応され、現状をよく把握されていると感じましたし、市長に対する評価も上がりました。

議長

私は加藤市長、西寺市長、古川市長の3人と話しをする機会がありましたが、現場へ足を運び、現場の声を聞く姿勢は、今の古川市長が一番積極的だと感じます。

委員

確かに、現市長のフットワークや人間性はいいと思いますが、報酬を考える上では結果や実績も大事だと思います。

議長

敏感に反応するという目線でいくと、5千円を端数とみなくてもよいと思います。小幅にという意見もありますが、前回引き下げた額の半分を中心に検討していただきたいということからこの案で提案いたしましたので、再度、皆様に確認をさせていただきたいと思います。

委員

私は原案で良いと思います。市長を100万円にするというのは見た目にも美しいと思いますが、半端な数字の5千円があるからこそ「上がった」と感じてもらうことができ、市長に対しても「評価した」という印象を持ってもらえるのではないかと思います。議員に関してはもっと高くてもいいと思いますが、市長に比べると率は少なくとも上がっています。ただ1%台の率でいいのか悪いのかを判断することは、非常に難しいところです。

委員

私も昨年PTA会長として市長と懇談しましたが、「多治見の子どもたちのあるべき姿」について自分の考え方を明確に示してしましたし、そういう点では評価してもいいと思っています。金額的にはこの数字で良いと思います。

2年に1回の開催であれば、5千円の端数があっても良いと思います。議員の率が低いという点は「見える化」を進めていただくことを踏まえてということで良いと思います。

委員

このままで良いと思います。

委員

私も原案どおりで良いと思います。

委員	原案どおりで良いと思います。
委員	私も良いと思います。
委員	委員の皆様が承認されているのであれば、よろしいと思います。
議長	ありがとうございました。皆様の意見を集約しますと原案どおりということになりますので、事務局から皆様に「案」がとれたものを改めてお送りいたします。最後に委員の皆様から感想をお願いします。
委員	初めてこのような大役を仰せつかいまして、市長、副市長、議員の給料額がこのようなかたちで決められていることを存じませんでしたので、私自身、大変勉強になりました。
委員	初めて参加しましたが、いろいろと勉強をさせていただきました。今後の多治見の展望を見ることもできて良かったと思います。
委員	普段知らないことを知ることができましたし、今回は「引き上げ」の方向でしたので、前回以上に真剣な議論ができて良かったと思います。
委員	市政に関心が薄かったこともあって最初はわからないことばかりでしたので、勉強する機会をいただいて良かったと思いますが、ただ、なぜ市民の関心がこれほどまでに薄いのか心配になりました。私は審議会を通じて知る機会ができ、勉強をさせてもらえましたが、もっと市民に関心を持つような取り組みをしていただけるといいと思いました。
木村事務局長	例えば、市内の小中学生が市議会を見学する機会などはないのでしょうか。
委員	夏休みに行われる市役所の見学会では、市議会も見学することができます。子どもやその親が議会に関心を持ってもらうような取り組みを、もっと行っていく必要があると感じました。
委員	皆さんがきちんと考えをまとめて意見を言われる中、私は主婦目線で意見を言うことしかできずに反省することばかりでしたが、いろいろな知識を吸収することができ、よい経験をさせていただきました。
委員	本来、議員等の政治家の報酬は、これだけでは生活できない額ではありますが、市民感情的に「高い」と思われるということは、やはり議員活動が目に見えないこと、議員活動を片手間でやっている方が実際にいることなどが原因だと思います。今後は片手間ではできないほどに議員の仕事に励んでいただき、市民の皆さんも厳しい目で見守っていただくようお願いしたいと思います。本当に委員の皆さんがいい方ばかりで良かったと思います。
委員	50名の区長を抱えておりますといろいろな意見が出ますが、必要なものとそうでないものを分類しながら日々進めているところです。多治見市は保守本流ですので、何か新しいものを考えたり作ったりするには、大変な労力が必要となってきます。現在町内会の再編について取り組んでいるところですが、今まであったものを打破することは非常に難しいことだと思います。
	審議会に参加する中で感じたのは「他人の給料額を決めることの難しさ」です。目には見えないが指導的立場にある皆さんの給料を私たちが決めてい

議長

いだろうか等、多くの疑問を持ちつつ審議を重ねながら、最終的には良い結論を皆さんに導いていただけたと思っています。

ありがとうございました。それでは、以上で議長に与えられた仕事は全て終了いたしました。つたない進行でありましたが、委員の皆様のご協力により無時終えることができました。ご協力、誠にありがとうございました。

それでは事務局にお返しします。

鈴木課長

本日確定した答申書につきましては、「案」をとったものを皆様に郵送でお送りいたします。なお、審議会は本日で終了でございますが、皆様の任期は答申書を市長に渡して終了でございます。10月7日（火）午前10時から、市役所4階の市長応接室で会長から市長へ答申書を渡していただきますので、委員の皆様もぜひご出席賜ります様、お願いいたします。

あわせて本日の議事録につきましては、皆様に確認をいただく作業がございますので、まとも次第、送付させていただきます。

それでは最後に、企画部長から挨拶をさせていただきます。

青山企画部長

全3回にわたり熱心なご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。審議会では多くの意見を踏まえた議論が必要ですが、他市の状況や市長等の実績が重要だというご意見もあるなど、皆様には凝縮した時間で熱心にご議論いただきました。市長や議員の給料等については、市民やマスコミを含めて多くの方が関心を持っているところでございますが、審議会でも議論された内容や意見につきましては、堂々と胸をはって公表できるものでございます。多方面からこのように集まっていただき大変ありがたいと思っておりますが、特にこの審議会をまとめてくださった会長、また会長を支えてくださった副会長におかれましては、ご尽力いただきまして誠にありがとうございました。